

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第121回学術フォーラム *Forum for Interface Oral Health Science*

デジタル時代の「接着歯学」 ～CAD/CAMレジン冠治療から学ぶべきこと～

峯 篤史 先生

大阪大学歯学部附属病院口腔補綴科講師

2020年2月25日（火） 17:30～18:50

歯学研究科口腔システム補綴学分野医局（C棟7階）

CAD/CAMレジン冠は高重合のレジンブロックを用いるため、審美的、高品質かつ安価に冠を作製することが可能である。大臼歯用のブロックはさらにその物性が向上しており、今後一言で「レジン」とは言えない材料が生み出される期待に満ちている。また、さらなる技術革新により、これまでに不可能であった加工が可能となっても不思議ではない。

一方、実際の臨床ではCAD/CAM冠の早期脱落トラブルが散見され、問題となっている。その原因究明のために我々は、「接着阻害因子に注目した基礎研究」と「デジタルデータを抽出した臨床研究」を行っている。本講演ではこれらの研究成果をお示するとともに、現在推奨されるべきCAD/CAM冠の臨床ステップとその根拠を解説したい。

今後、新規材料の開発やデジタル技術の普及により、まったく新しい治療法や診療体系が実現することになる。しかしながら、アナログ的なステップが完全に排除され、フルデジタルアプローチとなるまでには、まだ時を必要とすることであろう。歯科医師にはデジタルとアナログの接点で適切な処置を行うことが求められており、そのために接着歯学に対する理解とその活用は不可欠であると考えます。

今回、接着歯学に関する様々な最新データと学ぶべきポイントを時間の許す限りお示したい。本講演が、東北大学の皆様の「臨床」のみならず、「研究」を考える上での何かのきっかけになれば幸いである。

連絡先: 第121回モデレーター 佐々木 啓一, 小川 徹(口腔システム補綴学分野)